【 6 】

氏名	**白 神 史 雄**
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 568 号
学位授与の日付	昭和59年3月31日
学位授与の要件	医学研究科外科系眼科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	**網膜脈絡膜萎縮症の臨床的研究** **第1報 進行に関する定量的検討** **第2報 病的近視の黄斑部病変の進展過程**
論文審査委員	教授 小川勝士 教授 粟井通泰 教授 小倉義郎

学位論文内容の要旨

著者は，網膜脈絡膜萎縮症の予後を解明する目的で，計量医学的方法を用いることによって，本症全体に共通した増悪因子を明らかにし，また，本症の中で重要な位置を占める病的近視の黄斑部病変に関してその進展過程を把握することを試みた。

本症全体を対象として萎縮巣の面積の拡大を定量的に解析すると，脈絡膜血管新生(網膜下血管新生)，脈絡膜循環障害及び加齢が，その拡大に増悪因子として作用することを明らかにした。

本症の中で重要な位置を占める病的近視の黄斑部病変に関して，網膜下血管新生，脈絡膜循環障害及び加齢の3つの因子を念頭にした上で，マルコフ過程を応用することによってその病態推移の解析をおこなった。まず，重篤な視機能障害をひきおこす主たる病態が，40代までの比較的若い年齢では網膜下血管新生の発生による変化であるのに対して，40代以後の高齢になると脈絡膜循環障害の認められる脈絡膜の萎縮性変化であることを認めた。次に，40代以後になると，網膜下血管新生の生じた病変が，高率に，周囲に脈絡膜の萎縮性変化をともなってくることを明らかにした。また，本病変は，全体的には，加齢とともにより重篤な病態に推移していく病変であると推定した。

論文審査の結果の要旨

本研究は網膜脈絡膜萎縮症の病巣面積の拡大を定量的に解析すると共に，病的近視の

黄斑部病変の病態推移をマルコフ過程を応用して検討し，年令に応じて脈絡膜血管新生，脈絡膜循環障害，および加令そのものが増悪因子となることを明らかにしたものであるが，従来計量的検索報告に乏しい本症の病態を解明し予後を判定するのに重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。